

# 温泉の成分、禁忌症、適応症

成 分	禁 忌 症 ・ 適 応 症
<p>1. 源泉地、源泉名または採取地 修善寺温泉事業共同組合第1貯湯槽</p> <p>2. 泉 質 アルカリ性単純温泉（低張性・アルカリ性・高温泉）</p> <p>3. 泉 温           61.2℃</p> <p>4. 温泉の成分</p> <p>〈陽イオン〉 計 167.8 mg/kg</p> <p>    ナトリウムイオン   149.4 mg/kg</p> <p>    カリウムイオン       3.1</p> <p>    カルシウムイオン    15.3</p> <p>〈陰イオン〉 計 300.1mg/kg</p> <p>    フッ素イオン       1.1   リン酸水素イオン   0.2</p> <p>    塩素イオン        138.4   炭酸水素イオン   51.0</p> <p>    臭素イオン        0.2   炭酸イオン       9.6</p> <p>    硫酸イオン        99.6</p> <p>〈非解離成分〉 計 66.4 mg/kg</p> <p>    メタ亜ヒ酸           0.3 mg/kg</p> <p>    メタケイ酸           64.9</p> <p>    メタホウ酸           1.2</p> <p>〈溶存物質〉 計 0.534 g/kg （ガス性のものを除く）</p> <p>〈その他微量成分〉</p> <p>    亜鉛イオン           0.010 mg/kg</p> <p>    ヨウ素イオン         0.080</p> <p>    水酸イオン           0.067</p> <p>5. 温泉の分析年月日 平成8年9月30日（財）静岡県生活科学検査センター</p>	<p>1. 禁忌症（浴用） 急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、心臓病（ただし高温浴（42℃以上）の場合）、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、高度の動脈硬化症（ただし高温浴の場合）、高血圧症（ただし高温浴の場合）、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）</p> <p>2. 適応症（浴用） 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進</p> <p>3. 浴用上の注意事項 温泉には老化現象が認められ、地中から湧出した直後の新鮮な温泉が最も効用があると言われていたが、それぞれの泉質に適する用い方をしなければ、かえって疾病に不利に働く場合がある。従って、浴用上の注意事項はおおむね次の通りである。</p> <p>1. 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日あたり1回程度とすること。その後は、1日あたり2回ないし3回までとする。</p> <p>2. 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。</p> <p>3. 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間後に湯あたり（湯さわり又は浴湯反応）が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。</p> <p>4. 以上のほか入浴には次の諸点について注意すること。</p> <p>(1) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。</p> <p>(2) 入浴中は、運動浴の場合は別として、一般には安静を守る。</p> <p>(3) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない（湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後、真水で身体を洗うか温泉成分を拭き取るのがよい）。</p> <p>(4) 入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。</p> <p>(5) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意する。</p> <p>(6) 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(7) 飲酒しての入浴は特に注意する。</p> <p>4. 適応症または禁忌症の決定年月日   平成 9 年 9 月 12 日</p> <p>5. 決定者   静岡県修善寺保健所長   武田良次</p>